

<8月5日(金)~7日(日)第5戦第6戦レポート>

2016 D1 GRAND PRIX SERIES Rd.5-6 EBISU DRIFT

コースコンディション:ドライ

PACIFIC RACING TEAM with DUNLOP 野村謙選手(車両:NAC DUNLOP BRIDE ER34)

最終成績:第5戦・単走決勝敗退(23位) / 第6戦・単走予選不通過

<本文>

D1GP 第5戦の舞台は福島県エビスサーキット。東日本のドリフトの聖地ともいわれるサーキットだ。野村選手は西日本のドライバーだが、このエビスサーキットでは、'04年に初優勝を挙げたほか、何度も決勝進出経験があり、得意としていたサーキットだ。

前戦はエンジン不調が見られたが、そこは復調し、早めにエビスサーキットに乗り込んでテストを行った。

しかし第5戦の予選が行われる金曜日、1回目の公式練習でトラブルに見舞われた。走行時間の途中でデフがブローしたのだ。これでデフを交換しなければいけないことになったが、同じギヤ比のデフがない。この練習走行1回目はDOSS得点で98点台を出すなど、好調な出だしたが、ここでファイナルギヤを4.3から3.7に変更しなければならなかった。しかも、この交換に時間がかかり練習走行2回目には出走できず、第5戦の単走予選本番を迎えることになった。



第5戦単走予選1本目。それなりにいい勢いで最終コーナーを出てきたが、1コーナーの角度が浅めで、いまひとつ高得点にはならない。97.73点。2本目も、1コーナーからの角度やライン、アクセルONのタイミングがいまひとつ決まらず、97.72点に留まった。とはいえ、このラウンドは東日本のベテランドライバーでも苦戦ぎみで、野村選手は16位ぎりぎり単走予選通過を果たした。

この単走予選のあと、野村選手は本来のファイナルギヤ4.3のデフを手配することができ、夜の間に交換をして、翌日の第5戦単走決勝を迎えることになった。

第5戦決勝日、朝のチェック走行でデフからは少し音が出ていて、不安は残る状態だったが、ギヤ比的には問題なかった。そして単走決勝本番に臨む。

1本目、野村選手はやや慎重になったのか最終コーナーの出の勢いがいまひとつで、最高速も伸びない。得点は96.08点。このままでは単走決勝通過はおぼつかない。

2本目、今度は勢いを増し、速度も上がってきたが、1コーナーまで勢いが持続しなかったようにも見え、角度も浅くなってしまふ。得点は96.45点だ。狙ったほどは伸びない。

結局ボーダーラインは97.29点となり、野村選手は23位。上位16名が進出できる追走トーナメントには行けなかった。



また、この第5戦の単走決勝は、翌日に行われる第6戦の予選を兼ねていた。そちらの方でも野村選手はシード選手8名を除く上位16名に入れず、第6戦は単走予選敗退となってしまった。

第6戦はチームメイトの村山選手が優勝したものの、大会後のシリーズランキングで野村選手は27位。上位24名だけが参加できる最終戦には出走することができなくなってしまった。

<野村謙選手コメント>

昨日ぐらいの点数やったらそれなりのところに行ってたのに、走り方をちょっと変えてみて、人の意見も聞いたりして。失敗したなあ。最近、走る前に変えるクセがあつてね。『あ、こうしたら点数が上がりそうだな』って。でも逆にそれがいつも失敗しとる。『今回はこれや』と思ったんやけど、昨日よりぜんぜん点数が下がった。まあそんな感じでした……。

しかも、明日の予選と今日の単走が一緒になつとるから、それも後から『そういえばそうや』と気づいて、失敗。さらに失敗です。ちょっともったいないなあ。パワステ、デフに始まって、トラブルもちょっと多くて。まあまあいろいろあるんですね。長年やってると」